

論文

第2次大戦前におけるドイツ大銀行の 監査役兼任ネットワークの構造（Ⅱ）

—— ナチス期のドイツ銀行、ドレスナー銀行およびコメルツ銀行の分析 ——

山崎敏夫*

目次

- I 問題の所在
- II 企業間人的ネットワークの考察方法——社会的ネットワーク分析の方法——
- III ドイツ銀行の監査役兼任ネットワークの構造
 - 1 監査役兼任ネットワーク
 - 2 兼任監査役のクリーク（以上前号）
- IV ドレスナー銀行の監査役兼任ネットワークの構造（以下本号）
 - 1 監査役兼任ネットワーク
 - 2 兼任監査役のクリーク
- V コメルツ銀行の監査役兼任ネットワークの構造
 - 1 監査役兼任ネットワーク
 - 2 兼任監査役のクリーク
- VI 監査役兼任ネットワークの3大銀行間の比較
- VII 結語

IV ドレスナー銀行の監査役兼任ネットワークの構造

1 監査役兼任ネットワーク

つぎにドレスナー銀行についてみていくことにするが、まず同行のネットワークの構成企業の中心性を、兼任関係のある企業数である隣接度によって測定することにしよう。監査役兼任ネットワークを構成している同行と「距離1」内の企業（187社）のなかで、兼任関係がみられた企業数である隣接度では（表1参照）、その重い順から上位10社中、銀行業が2社、保険業が1社であり、これらの金融機関3社を除く7社が非金融企業であった。その産業別の内訳をみると、炭鉱業が2社、鉄鋼業が2社、化学産業が1社、電機産業が1社、その他の産業が1社であった。これらの上位10社の隣接度は246から179の間に分布していた。隣接度が246であり最も高い中心性を示していた企業は、電機産業のAEGであった。鉄鋼業のMitteldeutsche Stahlwerke AG、Vereinigte Stahlwerke AG、銀行業のDeutsche Centralbodenkredit-AG、炭鉱業のRheinische AG für Braunkohlenbergbau und Brikettfabrikationがそれに続いており、

* 立命館大学経営学部 教授

表 1 ドレスナー銀行のネットワークにおける構成企業の「中心性」¹⁾

順位	企業名	隣接度 ²⁾	業種・産業
1	Allgemeine Elektrizitäts-Gesellschaft	246	電機産業
2	Mitteldeutsche Stahlwerke AG	244	鉄鋼業
3	Vereinigte Stahlwerke AG	243	鉄鋼業
4	Deutsche Centralbodenkredit-AG	229	銀行業
5	Rheinische AG für Braunkohlenbergbau und Brikettfabrikation	207	炭鉱業
6	Kokswerke und Chemische Fabriken AG	199	化学産業
7	Allianz und Stuttgarter Verein Versicherungs AG	197	保険業
8	Dresdner Bank ³⁾	187	銀行業
9	Deutsch-Atlantische Telegraphengesellschaft	183	その他の産業
10	Harpener Bergbau-AG	179	炭鉱業
11	Commerz- und Privat-Bank AG	162	銀行業
12	Elektrizitäts-Lieferungs-Gesellschaft mbH	153	電力業・ガス産業・エネルギー産業
13	Essener Steinkohlenbergwerke AG	150	炭鉱業
14	Allianz und Stuttgarter Lebensversicherungsbank AG	146	銀行業
15	AG für Waggonbauwerte (Linke-Hofmann-Busch-Werke AG)	145	機械産業
16	Dynamit AG vormals Alfred Nobel & Co.	142	化学産業
16	Allgemeine Deutsche Creditanstalt	142	銀行業
18	Eisenwerk-Gesellschaft Maximilianshütte	141	鉄鋼業
19	Nordstern Lebensversicherungsbank-AG	138	銀行業
20	Deutsche Hypothekenbank, Meiningen	137	銀行業
21	Reichs-Kredit-Gesellschaft AG	136	銀行業
22	Rheinische Metalwaaren- und Maschinenfabrik (Rheinmetall-Borsig)	130	機械産業
23	Gesellschaft für Getreidehandel	126	流通業
23	Gerling-Konzern Lebensversicherungs-AG	126	保険業
25	Wintershall AG	122	化学産業
26	Universum-Film AG	120	その他の産業
27	Deutsche Erdöl AG	119	石油産業
28	Bank des Berliner Kassenvereins	109	銀行業
29	Bank für Brau-Industrie	108	銀行業
30	Niederschlesische Bergbau-AG	107	炭鉱業
30	Kali-Chemie AG	107	化学産業
32	Braunkohlen- und Brikettwerke, Roddergrube AG	99	炭鉱業
32	Norddeutscher Lloyd	99	交通業
32	Hotelbetriebs-AG (Bistol, Kaiserhof, Bellevue, Balfie, Central-Hotel)	99	その他の産業
35	Bayerische Stickstoff-Werke AG	95	化学産業
35	Deutsche Gesellschaft für öffentliche Arbeit AG	95	その他の産業
37	Grube Leopold AG	92	炭鉱業

37	Deutsche Bau- und Bodenbank AG	92	銀行業
39	Waggon- und Maschinenfabrik AG vorm. Busch	90	機械産業
39	Eisenbahn-Verkehrsmittel-AG	90	機械産業
41	Bayerische Vereinsbank	89	銀行業
41	Hamburg-Amerikanische Packetfahrt-AG (Hamburg- Amerika-Linie)	89	交通業
43	Schlesische Elektrizitäts- und Gas-AG	88	電力業・ガス産業・エネルギー産業
44	Adlerwerke vorm. Heinrich Kleyer AG	85	自動車産業
44	Brandenburgische Elektrizitäts-, Gas- und Wasserwerke AG	85	電力業・ガス産業・エネルギー産業
44	Portland-Zementwerke Dyckerhoff-Wicking AG (Mainz-Amöneburg)	85	その他の産業
47	Norddeutsche Hütte AG	83	鉄鋼業

- (注) 1) Dresdner Bank と距離 1 の範囲でのその兼任先企業をあわせた 188 社のうち、隣接度でみた上位企業の 4 分の 1 をリストアップしたもの。
 2) 中心性は、兼任のみられる企業数である隣接度によって測定される。
 3) 下線を引いた企業は、このネットワークの起点となる企業である Dresdner Bank。
 (出所) : J. Mossner (Hrsg.), *Adressbuch der Direktoren und Aufsichtsräte 1936*, Bd.I, Nach Personen geordnet, Finanz-Verlag, Berlin, 1936, Dresdner Bank, *Geschäftsbericht*, 各年度版, *Handbuch der deutschen Aktien-Gesellschaften*, 各年度版を基に筆者作成。

それらの隣接度はそれぞれ 244, 243, 229, 207 となっていた。これらの 5 社が隣接度でみた上位 5 位内に位置していた。6 位は化学産業の Kokswerke und Chemische Fabriken AG であり、その隣接度は 199 となっていた。7 位は保険業の Allianz und Stuttgarter Verein Versicherungs AG (隣接度 197), 8 位は銀行業のドレスナー銀行 (同 187), 9 位はその他の産業に属する Deutsch-Atlantische Telegraphengesellschaft (同 183), 10 位は炭鉱業の Harpener Bergbau-AG (同 179) であった。上位 5 社でみると、炭鉱業が 1 社、鉄鋼業が 2 社、電機産業が 1 社、銀行業が 1 社となっており、銀行が最上位層に位置していた。上位 5 社の企業の構成では一部異なる点が見られるが、産業別の内訳では、ドイツ銀行のネットワークの場合と同じであった。

また隣接度でみた上位 11 位から 20 位の企業には、炭鉱業が 1 社、鉄鋼業が 1 社、化学産業が 1 社、機械産業が 1 社、銀行業が 5 社、電力業・ガス産業・エネルギー産業が 1 社となっていた。これら 10 社の隣接度は 162 から 137 の間に分布しており、人的結合のみられた企業数は非常に多かった。11 位は銀行業のコメルツ銀行 (Commerz- und Privat-Bank AG) (隣接度 162), 12 位は電力業・ガス産業・エネルギー産業の Elektrizitäts-Lieferungs-Gesellschaft mbH (同 153), 13 位は炭鉱業の Essener Steinkohlenbergwerke AG (同 150), 14 位は銀行業の Allianz und Stuttgarter Lebensversicherungsbank AG (同 146), 15 位は機械産業の AG für Waggonbauwerte AG (Linke-Hofmann-Busch-Werke AG) (同 145) であった。16 位は化学産業の Dynamit AG vormals Alfred Nobel & Co. と銀行業の Allgemeine Deutsche Creditanstalt の 2 社であり、いずれも隣接度は 142 であった。18 位は鉄鋼業の Eisenwerk-Gesellschaft

Maximiliamshütte (同 141), 19 位は銀行の Nordstern Lebensversicherungsbank-AG (同 138), 20 位は銀行業の Deutsche Hypothekenbank, Meiningen-Weimar (同 137) であった。

以上をふまえていえば, 上位 20 位中, 炭鉱業が 3 社 (5 位, 10 位, 13 位), 鉄鋼業が 3 社 (2 位, 3 位, 18 位), 化学産業が 2 社 (6 位, 16 位), 電機産業が 1 社 (1 位), 機械産業が 1 社 (15 位), 銀行業が 7 社 (4 位, 8 位, 11 位, 14 位, 16 位, 19 位, 20 位), 保険業が 1 社 (7 位), 電力業・ガス産業・エネルギー産業が 1 社 (12 位), その他の産業が 1 社 (9 位) となっていた。このように, 上位 20 社のなかでは, 銀行業の企業が 7 社と最も多く, 他の産業の企業の数と比べるとはるかに多かった。銀行業以外では, 炭鉱業, 鉄鋼業の企業の数が多かった。上位 11 位から 20 位に位置する 10 社のいずれをみても, 人的結合のみられた企業数は非常に多かったことが特徴的である。この点はドイツ銀行のネットワークの場合と同様である。上位 30 社以下でみると, 例えば同順位で 30 位に位置していた炭鉱業の Niederschlesische Bergbau AG, 化学産業の Kali-Chemie AG の隣接度はそれぞれ 107, とともに 39 位に位置していた機械産業の Waggon- und Maschinenfabrik AG vorm. Busch と Eisenbahn-Verkehrsmittel-AG の隣接度はそれぞれ 90 となっており, ドイツ銀行のネットワークの場合との比較でみると, その数値は低くなっているが, 人的結合のみられた企業数自体はかなり多かった。

このように, 上位 20 位でみると銀行の数は多かったが, 上位 5 社内で見ると 1 社, 10 位内で見ても 2 社であり, 上位 10 社という最上位層に占める銀行の数が多かったわけでは必ずしもなかった。そのうちの 1 社はドレスナー銀行自体 (8 位) であり, 同行は自らの監査役兼任ネットワークのなかで中心性の高い企業に属していた。1 位に位置していた電機産業の AEG, 2 位に位置していた鉄鋼業の Mitteldeutsche Stahlwerke AG, 3 位に位置していた鉄鋼業の Vereinigte Stahlwerke AG, 5 位に位置していた炭鉱業の Rheinische AG für Braunkohlenbergbau und Brikettfabrikation, 6 位に位置していた化学産業の Kokswerke und Chemische Fabriken AG など, ドイツ資本主義の基幹産業部門の代表的企業が上位にあった。しかも, 5 位内に入る各企業の隣接度はいずれも 200 以上であり, 10 位に位置していた炭鉱業の Harpener Bergbau AG をみても隣接度は 179 となっており, 人的結合のある企業の数は非常に多かった。この点は, ドイツ銀行のネットワークの場合と同様である。このように, 人的結合のみられた企業の数が圧倒的に多かったという点を考えても, 最も多くの企業との人的な結びつきによって情報フローの結節点としての役割において大きな位置を占める最上位の隣接度を示す企業としては, 鉄鋼業, 化学産業, 電機産業, 自動車産業などの基幹産業門における最有力企業の占める位置が高かったといえる。

つぎに, 監査役兼任のネットワーク全体の性格を示す凝集性についてみると, それは密度の尺度によって測定される。密度は 0.0038978 であった。ドレスナー銀行の監査役会メンバーによる「距離 1」の範囲での兼任のみられた企業数は 187 社であったが, 「距離 2」の範

囲でのネットワークに属する企業は総数 2,331 社であり¹⁾、ドイツ銀行の場合の総数 2,701 社¹⁾よりは少ないが、「距離 2」の範囲で構成されるネットワークにおける頂点数は非常に多かった。

2 兼任監査役のクリーク

つぎに、ドレスナー銀行と他社を結びつける兼任監査役を取り上げて、兼任監査役のクリークについて考察することにしよう。同行の監査役会メンバーが同社以外のいずれかの企業の監査役会で同席するケースは、鉄鋼業の Vereinigte Stahlwerke AG、電機産業の AEG、機械産業の Waggon- und Maschinenfabrik vorm. Busch、銀行業の Hermes Kreditversicherungsbank AG、Allianz und Stuttgarter Lebensversicherungsbank AG、Commerz- und Privat-Bank-AG、Allgemeine Deutsche Creditanstalt、Norddeutsche Kreditbank AG、保険業の Allianz und Stuttgarter Verein Versicherungs-AG、電力業・ガス産業・エネルギー産業の Deutsche Electricitätswerke zu Aachen Garbe, Lahmeyer & Co.,AG、その他の産業に属する Treuhand-Vereinigung AG、Universum-Film AG、Zucker-Raffinerie Hildesheim GmbH、Gemeinnützige Baugesellschaft für Aachen und Burtscheid AG の 14 社においてみられ、兼任件数は 28 件となっていた。

ドレスナー銀行の監査役会メンバーのうち、同社以外のいずれかの企業の監査役会で同席する監査役は、15 人存在した。そのような人物は、F. アンドレアエ、G. タルボット、F. フリック、W. キッスカルト、B. クラウゼン、W. ケーラー、C.A. パストル、C.O. シュメルター、J. シュヴァンドト、K. リンデマン、W. マインベルグ、K. パイファー、C. ヴェンツェル、E. ディルクス、F.A. ドュフオア・フォン・フェロンツェであった。

上記の 14 社のなかでみると、F. アンドレアエと G. タルボットは、それぞれ 4 社との間で監査役会ポストによって兼任関係を有していた。F. アンドレアエは、電機産業の AEG では監査役会副会長のポストによって、銀行業の Hermes Kreditversicherungsbank AG、Allianz und Stuttgarter Lebensversicherungsbank AG、その他の産業に属する Universum-Film AG の 3 社では、監査役のポストによって兼任を行っていた。G. タルボットは、鉄鋼業の Vereinigte Stahlwerke AG、電力業・ガス産業・エネルギー産業の Deutsche Electricitätswerke zu Aachen Garbe, Lahmeyer & Co.,AG、その他の産業に属する Zucker-Raffinerie Hildesheim GmbH、Gemeinnützige Baugesellschaft für Aachen und Burtscheid AG において、監査役のポストによって兼任を行っていた。

F. フリックと W. キッスカルトは、それぞれ 3 社との間で監査役会ポストによって兼任関係を有していた。F. フリックは、機械産業の Waggon- und Maschinenfabrik vorm. Busch では監査役会副会長のポストによって、鉄鋼業の Vereinigte Stahlwerke AG、電機産業の

AEG では、監査役のポストによって兼任を行っていた。W. キッスカルトは、銀行業の Hermes Kreditversicherungsbank AG では監査役会会長のポストによって、銀行業の Allianz und Stuttgarter Lebensversicherungsbank AG、保険業の Allianz und Stuttgarter Verein Versicherungs-AG では、監査役のポストによって兼任を行っていた。

B. クラウゼン、W. ケーラー、C.A. パストルの 3 人は、それぞれ 2 社との間で監査役会ポストによって兼任関係を有していた。B. クラウゼンは、銀行業の Commerz- und Privat-Bank-AG、Allgemeine Deutsche Creditanstalt において監査役のポストによって兼任を行っていた。W. ケーラーは、銀行業の Allgemeine Deutsche Creditanstalt、Norddeutsche Kreditbank AG において監査役のポストによって兼任を行っていた。C.A. パストルは、電力業・ガス産業・エネルギー産業の Deutsche Electricitätswerke zu Aachen Garbe, Lahmeyer & Co.,AG、その他の産業に属する Gemeinnützige Baugesellschaft für Aachen und Burtscheid AG において監査役のポストによって兼任を行っていた。

C.O. シュメルター、J. シュヴァンドト、K. リンデマン、W. マインベルグ、K. パイファー、C. ヴェンツェル、E. ディルクス、F.A. ドュフオア・フォン・フェロンツェの 8 人は、いずれも 1 社との間で監査役会ポストによって兼任関係を有していた。C.O. シュメルターは機械産業の Waggon- und Maschinenfabrik vorm. Busch において、J. シュヴァンドトは銀行業の Commerz- und Privat-Bank-AG において、K. リンデマンは銀行業の Norddeutsche Kreditbank AG において、W. マインベルグは保険業の Allianz und Stuttgarter Verein Versicherungs-AG において監査役のポストによって兼任を行っていた。K. パイファーはその他の産業に属する Universum-Film AG において、C. ヴェンツェルはその他の産業に属する Zucker-Raffinerie Hildesheim GmbH において監査役のポストによって兼任を行っていた。E. ディルクスと F.A. ドュフオア・フォン・フェロンツェはともに、その他の産業に属する Treuhand-Vereinigung AG において監査役のポストによって兼任を行っていた²⁾。

また重複度数 3 点以上の企業、すなわち 3 件以上の兼任関係があった企業という点で見ると、ドイツ銀行のネットワークの場合とは異なり、そのようなケースに該当する企業は存在しなかった。それゆえ、3 件以上の兼任関係があった企業を結びつける兼任監査役の中核の会合ネットワークがみられなかった。

V コメルツ銀行の監査役兼任ネットワークの構造

1 監査役兼任ネットワーク

つぎにコメルツ銀行についてみることにするが、まず同行のネットワークの構成企業の中心性を、兼任関係のある企業数である隣接度によって測定することにしよう。監査役兼任ネット

ワークを構成している同行と「距離1」内の企業(162社)のなかで、兼任関係がみられた企業数である隣接度では(表2参照)、その重い順から上位10社中、銀行業が3社、保険業が1社であり、これらの金融機関4社を除く6社が非金融企業であった。その産業別の内訳をみると、鉄鋼業が2社、化学産業が1社、電機産業が2社、自動車産業が1社であった。これらの上位10社の隣接度は246から162の間に分布していた。隣接度が246であり最も高い中心性を示していた企業は、電機産業のAEGであった。鉄鋼業のMitteldeutsche Stahlwerke AG, Vereinigte Stahlwerke AG, 銀行業のDeutsche Centralbodenkredit-AG, 化学産業のKokswerke und Chemische Fabriken AGがそれに続いており、それらの隣接度はそれぞれ244, 243, 229, 199となっていた。これらの5社が隣接度でみた上位5位内に位置していた。6位は保険業のAllianz und Stuttgarter Verein Versicherungs AG(隣接度197), 7位は自動車産業のDaimler-Benz AG(同191), 8位は銀行業のドレスナー銀行(同187), 9位は電機産業のGesellschaft für elektrische Unternehmungen-Ludw. Loewe & Co.AG(同175), 10位は銀行業のコメルツ銀行(Commerz- und Privat-Bank AG)(同162)であった。上位5社でみると、鉄鋼業が2社、化学産業が1社、電機産業が1社、銀行業が1社となっており、産業企業が最上位層の多くを占めていた。上位5社と10社のいずれでみても、企業の属する産業の構成や企業の構成では、一部異なる点がみられるが、ドイツ銀行、ドレスナー銀行のネットワークの場合と類似の傾向もみられた。

また隣接度でみた上位11位から20位の企業には、鉄鋼業が1社、金属産業・金属加工業が1社、化学産業が1社、電機産業が1社、機械産業が1社、銀行業が3社、保険業が1社、その他の産業が1社となっていた。これら10社の隣接度は160から128の間に分布しており、人的結合のみられた企業数自体は非常に多かった。11位は銀行業のDeutsch-Asiatische Bank(隣接度160), 12位は機械産業のAG für Waggonbauwerte(Linke-Hofmann-Busch AG)(同145), 13位はその他の産業に属するFeldmühle,Papier- und Zellstoffwerke AG(同144), 14位は銀行業のAllgemeine Deutsche Creditanstalt(同142), 15位は鉄鋼業のEisenwerk- Gesellschaft Maximilianshütte(同141)であった。16位は銀行業のDeutsche Hypothekenbank,Meiningen-Weimar(隣接度137), 17位は保険業のGerling-Konzern Allgemeine Versicherungs AG(同134)であったが、第18位は金属産業・金属加工業のAG für Bergbau,Blei- und Zinkfabrikation zu Stollberg und in Westfalenと化学産業のA.Riebeck'sche Montanwerke AGであり、隣接度はともに133であった。20位は電機産業のElektrische Licht- und Kraftanlagen AGであり、その隣接度は128であった。

以上をふまえていえば、上位20位中、鉄鋼業が3社(2位, 3位, 15位), 金属産業・金属加工業が1社(18位), 化学産業が2社(5位, 18位), 電機産業が3社(1位, 9位, 20位), 自動車産業が1社(7位), 機械産業が1社(12位), 銀行業が6社(4位, 8位, 10位, 11位, 14

表 2 コメルツ銀行のネットワークにおける構成企業の「中心性」¹⁾

順位	企業名	隣接度 ²⁾	業種・産業
1	Allgemeine Elektrizitäts-Gesellschaft	246	電機産業
2	Mitteldeutsche Stahlwerke AG	244	鉄鋼業
3	Vereinigte Stahlwerke AG	243	鉄鋼業
4	Deutsche Centralbodenkredit-AG	229	銀行業
5	Kokswerke und Chemische Fabriken AG	199	化学産業
6	Allianz und Stuttgarter Verein Versicherungs AG	197	保険業
7	Daimler-Benz AG	191	自動車産業
8	Dresdner Bank	187	銀行業
9	Gesellschaft für elektrische Unternehmungen- Ludw.Loewe & Co.AG	175	電機産業
10	Commerz- und Privat-Bank AG ³⁾	162	銀行業
11	Deutsch-Asiatische Bank	160	銀行業
12	AG für Waggonbauwerte (Linke-Hofmann-Busch AG)	145	機械産業
13	Feldmühle,Papier- und Zellstoffwerke AG	144	その他の産業
14	Allgemeine Deutsche Creditanstalt	142	銀行業
15	Eisenwerk-Gesellschaft Maximilianshütte	141	鉄鋼業
16	Deutsche Hypothekbank,Meiningen	137	銀行業
17	Gerling-Konzern Allgemeine Versicherungs AG	134	保険業
18	AG für Bergbau,Blei- und Zinkfabrikation zu Stollberg und in Westfalen	133	金属産業・金属加工業
18	A.Riebeck'sche Montanwerke AG	133	化学産業
20	Elektrische Licht- und Kraftanlagen AG	128	電機産業
21	Gesellschaft für Getreidehandel	126	流通業
21	Rheinisch-Westfälische Boden-Credit-Bank	126	銀行業
21	Gerling-Konzern Lebensversicherungs AG	126	保険業
24	Vereinigte Industrie-Unternehmungen AG	120	その他の産業
25	Deutscher Eisenhandel AG	115	流通業
26	Kaliwerke Aschersleben	112	炭鉱業
27	Klößner-Werke AG	110	鉄鋼業
28	Westdeutsche Bodenkreditanstalt	108	銀行業
29	Kali-Chemie AG	107	化学産業
29	Allgemeine Gas- und Elektrizitäts-Gesellschaft	107	電力業・ガス産業・エネルギー産業
29	Braunkohlenindustrie AG Zukunft	107	炭鉱業
32	Maschinenfabrik Buckau R.Wolf AG	105	機械産業
33	Schultheiss-Patzenhofer Brauerei-AG	103	醸造業
34	Hotelbetriebs-AG (Bistol,Kaiserhof,Bellevue, Balfie,Central-Hotel)	99	その他の産業
35	Buders'sche Eisenwerke	97	鉄鋼業
36	Deutsche Gesellschaft für öffentliche Arbeit AG	95	その他の産業

37	Concordia Lebens-Versicherungs-Bank AG	93	銀行業
38	Schering-Kahlbaum AG	92	化学産業
39	Berlin-Karlsruher Industrierwerke AG vormals Deutsche Waffen- und Munitionsfabriken	89	金属産業・金属加工業
40	Ilse Bergbau-AG	85	炭鉱業
40	Portland-Zementwerke Dyckerhoff-Wicking AG (Mainz-Amöneburg)	85	その他の産業

(注) 1) Commerz- und Privat-Bank AG と距離 1 の範囲でのその兼任先企業をあわせた 163 社のうち、隣接度でみた上位企業の約 4 分の 1 をリストアップしたもの。

2) 中心性は、兼任のみられる企業数である隣接度によって測定される。

3) 下線を引いた企業は、このネットワークの起点となる企業である Commerz- und Privat-Bank AG。

(出所) : J. Mossner (Hrsg.), a. a. O., Commerz- und Privat-Bank AG, *Geschäftsbericht*, 各年度版, *Handbuch der deutschen Aktien-Gesellschaften*, 各年度版を基に筆者作成。

位, 16 位), 保険業が 2 社 (6 位, 17 位), その他の産業が 1 社 (13 位) となっていた。このように, 上位 20 社のなかでは, 銀行業の企業が 6 社と最も多く, 他の産業の企業の数との比較でははるかに多かった。銀行業以外では, 鉄鋼業, 化学産業, 電機産業, 自動車産業, 機械産業など, ドイツ資本主義の重要な位置を占める製造業部門の企業がみられたが, 炭鉱業や電力業・ガス産業・エネルギー産業の企業が存在しなかった点も特徴的である。また上位 11 位から 20 位に位置する 10 社のいずれをみても, 人的結合のみられた企業数は多く, この点はドイツ銀行やドレスナー銀行のネットワークの場合と同様である。上位 30 社以下でみると, 例えば 32 位に位置していた機械産業の Maschinenfabrik Buckau R. Wolf AG の隣接度はともに 105, 40 位に位置していた炭鉱業の Ilse Bergbau AG, その他の産業に属する Portland-Zementwerke Dyckerhoff-Wicking AG (Mainz-Amöneburg) の隣接度はそれぞれ 85 となっており, 人的結合関係のあった企業数自体は多かった。ただ 40 位の企業の隣接度では, ドイツ銀行のネットワークにおいて同順位に位置していた企業の場合の数値 (116) よりは少なかった。

このように, 上位 20 位でみると銀行の数は多かったが, 上位 5 社内で見ると 1 社, 10 位内で見ても 3 社であり, 上位 10 社という最上位層に占める銀行の数が非常に多いというかたちにはなっていなかった。そのうちの 1 社はコメルツ銀行自体 (10 位) であり, 同行は隣接度でみて最上位層に位置しているわけではなかったが, 自らの監査役兼任ネットワークのなかで中心性の高い企業に属していた。1 位に位置していた電機産業の AEG, 2 位に位置していた鉄鋼業の Mitteldeutsche Stahlwerke AG, 3 位に位置していた鉄鋼業の Vereinigte Stahlwerke AG, 4 位に位置していた銀行業の Deutsche Centralbodenkredit-AG をみた場合, ドレスナー銀行のネットワークでの企業の構成と一致していた。しかも, 5 位に位置していた企業の隣接度をみても 199 となっており, 10 位に位置していたコメルツ銀行でもそれは 162 となっており, 人的結合のある企業の数是非常に多かった。この点は, ドイツ銀行やドレスナー銀行のネットワークと共通する点である。人的結合がみられた企業数の多さという点を考えても, 企

業間の人的結合による情報フローの結節点としての役割において大きな位置を占める最上位の隣接度を示す企業としては、鉄鋼業、化学産業、電機産業、自動車産業などの基幹産業部門における大手企業が中核的な位置を占めていたといえる。

また、監査役兼任のネットワーク全体の性格を示す凝集性についてみると、それは密度の尺度によって測定される。密度は 0.003738 であった。コメルツ銀行の監査役会メンバーによる「距離 1」の範囲での兼任がみられた企業数は 162 社であったが、「距離 2」の範囲でのネットワークを構成する企業は総数 2,290 社であり、ドイツ銀行の場合の総数 2,701 社よりは少ないが、ドレスナー銀行の数値である 2,331 社³⁾ とほぼ同じ水準であり、ネットワークを構成する企業数はかなり多かった。

2 兼任監査役のクリーク

つぎに、コメルツ銀行と他社を結びつける兼任監査役を取り上げて、兼任監査役のクリークについて考察することにしよう。同行の監査役会メンバーのうち、同社以外のいずれかの企業の監査役会で同席する監査役がみられた企業は、16 社みられ、兼任件数は 34 件となっていた。そのような企業は、炭鉱業の Burbach-Kaliwerke AG、鉄鋼業の Buderus'sche Eisenwerke, Hüttenwerke C. Wilhelm Kayser & Co., 金属産業・金属加工業の Berlin-Karlsruher Industrie-Werke AG、化学産業の Consolidirte Alkaliwerke, 醸造業の Schultheiss-Patzenhofer Brauerei-AG, 銀行業の Deutsche Hypothekenbank, Meiningen, Deutsche Schiffsbeleihungs-Bank AG, Waaren-Commissions-Bank, Westdeutsche Bodenkreditanstalt AG, Dresdner Bank, 保険業の Elbe und Saale Versicherungs-AG, 電力業・ガス産業・エネルギー産業の Hamburgische Elektrizitäts-Werke AG, 交通業の Neue Deutsch-Böhmische Elbe-Schiffahrts-AG, その他の産業に属する Hansa-Mühle AG (Hanseatische Mühlenwerke AG), Treuhand-AG であった。

コメルツ銀行の監査役会メンバーのうち、同社以外のいずれかの企業の監査役会で同席する監査役は、15 人存在した。そのような人物は、E.F. レヒベルク, M. シュルツェ, A. カッツェネレンボーゲン, F. ラインハルト, R. シェーブフ, P. ローデ, C.L. ノッテボーム, H. フォン・シュタイン, F.H. ヴィットヘフト, H. ディーデリクセン, H. ハーニィ, B. クラウゼン, J. シュヴァンドト, A. バンヴァルス, E. ケムペフェルトであった。

上記の 16 社のなかでみると、F. ラインハルトは 6 社との間で監査役会ポストによって兼任関係を有していたが、鉄鋼業の Hüttenwerke C. Wilhelm Kayser & Co., 銀行業の Deutsche Hypothekenbank, Meiningen の 2 社では監査役会会長のポストによって、醸造業の Schultheiss-Patzenhofer Brauerei-AG では監査役会副会長のポストによって、鉄鋼業の Buderus'sche Eisenwerke, 金属産業・金属加工業の Berlin-Karlsruher Industrie-Werke AG, 化学産業の Consolidirte Alkaliwerke の 3 社では、監査役のポストによって兼任を行っていた。M. シュル

ツェと A. カッツェネレンベルクは、それぞれ4社との間で監査役会ポストによって兼任関係を有していた。M. シュルツェは、交通業の Neue Deutsch-Böhmische Elbe-Schiffahrts-AG, その他の産業に属する Treuhand-AG では監査役会会長のポストによって、炭鉱業の Burbach-Kaliwerke AG, その他の産業に属する Hansa-Mühle AG (Hanseatische Mühlenwerke AG) では、監査役のポストによって兼任を行っていた。A. カッツェネレンベルクは、鉄鋼業の Buderus'sche Eisenwerke では監査役会会長のポストによって、化学産業の Consolidirte Alkaliwerke, 銀行業の Deutsche Hypothekenbank, Meiningen, 銀行業の Westdeutsche Bodenkreditanstalt AG の3社では、監査役のポストによって兼任を行っていた。

F.H. ヴィットヘフトと E. ケムペフェルトは、それぞれ3社との間で監査役会ポストによって兼任関係を有していた。F.H. ヴィットヘフトは、その他の産業に属する Hansa-Mühle AG (Hanseatische Mühlenwerke AG) では監査役会会長のポストによって、銀行業の Waaren-Commissions-Bank, 電力業・ガス産業・エネルギー産業の Hamburgische Elektrizitäts-Werke AG では、監査役のポストによって兼任を行っていた。E. ケムペフェルトは、保険業の Elbe und Saale Versicherungs-AG, 交通業の Neue Deutsch-Böhmische Elbe-Schiffahrts-AG, その他の産業に属する Treuhand-AG において監査役のポストによって兼任を行っていた。

P. ローデ, C.L. ノッテボーム, A. バンヴァルス, R. シェープフの4人は、それぞれ2社との間で監査役会ポストによって兼任関係を有していた。P. ローデは、金属産業・金属加工業の Berlin-Karlsruher Industrie-Werke AG では監査役会副会長のポストによって、保険業の Elbe und Saale Versicherungs-AG では、監査役のポストによって兼任を行っていた。C. L. ノッテボームは、銀行業の Deutsche Schiffsbeleihungs-Bank AG では監査役会会長のポストによって、電力業・ガス産業・エネルギー産業の Hamburgische Elektrizitäts-Werke AG では、監査役のポストによって兼任を行っていた。A. バンヴァルスは、電力業・ガス産業・エネルギー産業の Hamburgische Elektrizitäts-Werke AG, その他の産業に属する Hansa-Mühle AG (Hanseatische Mühlenwerke AG) において監査役のポストによって兼任を行っていた。R. シェープフは、鉄鋼業の Hüttenwerke C. Wilhelm Kayser & Co., 醸造業の Schultheiss-Patzenhofer Brauerei-AG において監査役のポストによって兼任を行っていた。

E.F. レヒベルク, H. フォン・シュタイン, H. ディーデリクセン, H. ハーニィ, B. クラウゼン, J. シュヴァンドトの6人は、いずれも、1社との間で監査役会ポストによって兼任関係を有していた。レヒベルクは炭鉱業の Burbach-Kaliwerke AG において、シュタインは銀行業の Deutsche Schiffsbeleihungs-Bank AG において、ディーデリクセンは銀行業の Waaren-Commissions-Bank において、ハーニィは銀行業の Westdeutsche Bodenkreditanstalt AG において監査役のポストによって兼任を行っていた。クラウゼンとシュヴァンドトは、いずれも、Dresdner Bank において監査役のポストによって兼任を行っていた。

また重複度点数 3 点以上の企業、すなわち 3 件以上の兼任関係があった企業を結びつける兼任監査役の中核の会合ネットワークについてみると、コメルツ銀行と電力業・ガス産業・エネルギー産業の Hamburgische Elektrizitäts-Werke AG、その他の産業に属する Hansa-Mühle AG (Hanseatische Mühlenwerke AG) の 2 社との間には、それぞれ 3 件の強い兼任関係がみられた。コメルツ銀行の監査役会ポストを有する 4 人の人物がこれら 2 社あるいはそのうちの 1 社において兼任を行っていた。F.H. ヴィットヘフトは、Hansa-Mühle AG (Hanseatische Mühlenwerke AG) では監査役会会長として、Hamburgische Elektrizitäts-Werke AG では監査役として、A. バンヴァルスはこれら 2 社においていずれも監査役として、C.L. ノッテボームは Hamburgische Elektrizitäts-Werke AG において監査役として、M. シュルツェは Hansa-Mühle AG (Hanseatische Mühlenwerke AG) において監査役として、会合のネットワークを形成していた。しかし、これら 2 社との兼任関係が 3 件以上存在した「距離 2」の範囲に位置する企業はみられず⁴⁾、それゆえ、コメルツ銀行のネットワークでは、ドイツ銀行の場合とは異なり、距離 2 までの範囲での重複度点数 3 点以上の企業を結びつける会合ネットワークは存在しなかった。

VI 監査役兼任ネットワークの 3 大銀行間の比較

以上の考察をふまえて、つぎに、3 大銀行の監査役兼任ネットワークの比較を行うことにしよう。まずネットワークのまとまり具合 (結びつきの割合) を示す凝集性についてみると、ドイツ銀行の密度は 0.0044987、ドレスナー銀行のそれは 0.0038978、コメルツ銀行のそれは 0.003738 であった。ドレスナー銀行とコメルツ銀行の水準はほぼ同じであったが、ドイツ銀行の密度はこれら 2 行と比べるとやや濃かった。ドイツ銀行とドレスナー銀行の比較では、前者の監査役会メンバーによる「距離 2」の範囲でのネットワークを構成する企業の総数である頂点数は 2,701 であり、後者のそれ (2,331) よりも多かったが、兼任件数の合計である総ライン数では、ドイツ銀行のネットワークの場合には 16,404 であったのに対してドレスナー銀行のその場合には 10,536 であった。一方、ドイツ銀行とコメルツ銀行との比較では、前者の監査役会メンバーによる「距離 2」の範囲でのネットワークに属する企業の総数 2,701 社に対して後者のそれは 2,290 社であったが、総ライン数では、ドイツ銀行のネットワークの場合の 16,404 に対してコメルツ銀行の場合には 9,891 となっており、総ライン数の差が頂点数の差に比べ大きかった⁵⁾。これらの事情が、ドイツ銀行とドレスナー銀行、ドイツ銀行とコメルツ銀行のネットワークの間の凝集性 (密度) の相違を規定しているといえる。これに対して、ドレスナー銀行とコメルツ銀行の比較では、ネットワークを構成する企業の総数である頂点数と総ライン数のいずれでみてもあまり差はみられなかったということが、両行のネットワーク

の凝集性（密度）がほぼ同じ水準にあったという状況と関係しているものと考えられる。

またこれら3つの銀行のネットワークにおける「中心性」の比較では、上位10社のなかに入る銀行の数は、ドイツ銀行のネットワークでは2社（1位、4位）、ドレスナー銀行のそれでは2社（4位、8位）であったのに対して、コメルツ銀行のそれでは3社（4位、8位、10位）となっており、やや多かった。またこれら3つの銀行のネットワークにおける自行の隣接度の順位をみると、ドイツ銀行の場合には1位であったほか、ドレスナー銀行の場合には8位、コメルツ銀行の場合には10位であった。各行のネットワークにおいて上位5社のなかに入る銀行についてみると、ドイツ銀行のネットワークでは2つの銀行が位置していたのに対して、他の2行のそれでは銀行は1社のみであった。また上位20社でみると、ドイツ銀行のネットワークでは銀行は4社（1位、4位、16位、20位）、ドレスナー銀行のそれでは7社（4位、8位、11位、14位、16位、19位、20位）であったのに対して、コメルツ銀行のそれでは6社（4位、8位、10位、11位、14位、16位）となっており、ドレスナー銀行とコメルツ銀行のネットワークでは、銀行が上位層の多くを占めているという状況にあった。一方、銀行業とならぶ金融部門である保険業の企業についてみると、上位10社のなかに入る保険業の企業は、ドレスナー銀行のネットワークでは1社（7位）、コメルツ銀行のそれでは1社（6位）存在したが、ドイツ銀行のそれではみられなかった。上位20社でみても、ドイツ銀行とドレスナー銀行のネットワークではそのような状況には変化はみられなかったが、コメルツ銀行のネットワークでは、上位20社に位置する保険業の企業の数は2社であった。

これらの金融部門との比較で上位10社のなかに入る産業の企業をみると、炭鉱業の企業は、ドイツ銀行のネットワークでは2社（5位、8位）、ドレスナー銀行のそれでは2社（5位、10位）であったが、コメルツ銀行のそれではみられなかった。上位10社のなかに入る鉄鋼業の企業は、ドイツ銀行のネットワークでは1社（3位）、ドレスナー銀行のそれでは2社（2位、3位）、コメルツ銀行のそれでは2社（2位、3位）みられた。上位10社のなかに入る化学産業の企業は、3行のいずれのネットワークにおいても1社であり、コメルツ銀行のそれでは5位となっていたのに対して、ドイツ銀行とドレスナー銀行のネットワークではそれぞれ6位となっていた。上位10社のなかに入る電機産業の企業は、ドイツ銀行とドレスナー銀行のネットワークではそれぞれ1社（前者では2位、後者では1位）であったのに対して、コメルツ銀行のそれでは2社（1位、9位）みられた。上位10社のなかに入る自動車産業の企業は、ドイツ銀行とコメルツ銀行のネットワークではそれぞれ1社（いずれも7位）であったのに対して、ドレスナー銀行のそれではみられなかった。また上位10社のなかに入る電力業・ガス産業・エネルギー産業の企業は、ドイツ銀行のネットワークでは1社（10位）存在したが、他の2行のそれではみられなかった。

さらに各行のネットワークにおいて隣接度で最上位層に位置する企業についてみると、ドイ

ツ銀行、ドレスナー銀行およびコメルツ銀行の 3 行のネットワークのいずれにおいても上位 10 位内に位置していた企業は、4 社存在した。電機産業の AEG (隣接度 246) は、ドレスナー銀行とコメルツ銀行のいずれのネットワークにおいても 1 位に位置しており、ドイツ銀行のそれにおいては 2 位であった。銀行業の Deutsche Centralbodenkredit-AG (同 229) は、これら 3 社のネットワークにおいてそれぞれ 4 位に位置していた。鉄鋼業の Vereinigte Stahlwerke AG (隣接度 243) は、ドイツ銀行、ドレスナー銀行、コメルツ銀行のいずれのネットワークにおいても 3 位に位置していた。化学産業の Kokswerke und Chemische Fabriken AG (隣接度 199) は、コメルツ銀行のネットワークでは 5 位に、ドイツ銀行とドレスナー銀行のそれではいずれも 6 位に位置していた。

またドイツ 3 大銀行のうちのいずれか 2 行のネットワークにおいて上位 10 社内に位置していた企業は、5 社みられた。ドイツ銀行とドレスナー銀行のネットワークのいずれにおいても上位 10 位内に位置していた企業は、2 社存在した。炭鉱業の Rheinische AG für Braunkohlenbergbau und Brikettfabrikation (隣接度 207) とその他の産業に属する Deutsch-Atlantische Telegraphengesellschaft (同 183) は、これら 2 行のネットワークにおいてそれぞれ 5 位、9 位に位置していた。ドイツ銀行とコメルツ銀行のネットワークにおいて上位 10 位内に位置していた企業は 1 社みられたが、それは自動車産業の Daimler-Benz AG (隣接度 191) であり、隣接度でみた順位は、いずれのネットワークにおいても 7 位であった。ドレスナー銀行とコメルツ銀行のネットワークのいずれにおいても上位 10 位内に位置していた企業は、2 社存在した。鉄鋼業の Mitteldeutsche Stahlwerke AG (隣接度 244) と保険業の Allianz und Stuttgarter Verein Versicherungs AG (同 197) の 2 社は、これら 2 行のネットワークにおいてそれぞれ 2 位、7 位に位置していた。このように、本章において考察した 3 大銀行のネットワークでは、隣接度でみて最上位層に位置する中心性の高い企業に同一の会社がみられたことが特徴的である。

一方、3 大銀行のうちのいずれか 2 行のネットワークにおいて上位 20 社内に位置していた企業でみると、そのような企業は 7 社存在した。ドイツ銀行とドレスナー銀行のネットワークにおいて上位 20 位内に位置していた企業は、2 社みられた。炭鉱業の Essener Steinkohlenbergwerke AG (隣接度 150) は、ドレスナー銀行のネットワークでは 13 位に、ドイツ銀行のそれでは 19 位に位置していた。炭鉱業の Harpener Bergbau-AG (隣接度 179) は、ドレスナー銀行のネットワークでは 10 位に、ドイツ銀行のそれでは 11 位に位置していた。ドイツ銀行とコメルツ銀行のネットワークにおいて上位 20 位内に位置していた企業は、電機産業の Gesellschaft für elektrische Unternehmungen—Ludwi.Loewe & Co.AG (隣接度 175) の 1 社であり、同社は、コメルツ銀行のネットワークでは 9 位に、ドイツ銀行のそれでは 12 位に位置していた。ドレスナー銀行とコメルツ銀行のネットワークにおいて上位 20 位内に位

置していた企業は、4社存在した。鉄鋼業の Eisenwerk-Gesellschaft Maximilianshütte（隣接度 141）は、コメルツ銀行のネットワークでは 15 位に、ドレスナー銀行のそれでは 18 位に位置していた。機械産業の AG für Waggonbauwerte（Linke-Hofmann-Busch AG）（隣接度 145）は、コメルツ銀行のネットワークでは 12 位に、ドレスナー銀行のそれでは 15 位に位置していた。銀行業の Allgemeine Deutsche Creditanstalt（隣接度 142）は、コメルツ銀行のネットワークでは 14 位に、ドレスナー銀行のそれでは 16 位に位置していた。また銀行業の Deutsche Hypothekenbank, Meiningen-Weimar（隣接度 137）は、コメルツ銀行のネットワークでは 16 位に、ドレスナー銀行のそれでは 20 位に位置していた。

さらに重複度点数 3 点以上の企業、すなわち 3 件以上の兼任関係があった企業という点でみると、ドイツ銀行のネットワークの場合には、そのようなケースは 7 社においてみられた。また同行が直接的結合を築いていた「距離 1」の範囲での兼任のある各企業と「距離 2」の範囲で同様に 3 件以上の兼任関係があった企業の数も 49 社みられ、その数は非常に多かった。そのうちの 26 社は、ドイツ銀行が直接兼任関係を有する「距離 1」に該当する企業であり、本来の「距離 2」の範囲に位置する企業の数も 23 社であったが、「距離 1」の範囲では 3 つ以上の兼任ポストによるつながりのない企業 26 社も、「距離 2」と「距離 3」の範囲での関係をとおして、重複度点数 3 点以上の企業間の兼任関係によって築かれる会合ネットワークを構成していた。ドイツ銀行のネットワークのそのような状況に対して、ドレスナー銀行のネットワークでは、同行が 3 件以上の兼任関係を築いていた企業は存在しなかった。このように、ドイツ銀行のネットワークとの比較でみれば、ドレスナー銀行とコメルツ銀行のそれにおいては、3 件以上の兼任関係があった企業を結びつける兼任監査役の中核の会合ネットワークという点での情報フロー、情報メディアの結節点となる中核的企業間の関係においては、相違がみられる。

VII 結語

以上の考察をふまえて、つぎに、本稿での分析から得られる結論について示しておくことにしよう。まず 3 大銀行をめぐるネットワークの凝集性を第 2 次大戦前と戦後の時期について比較すると、以下の点を指摘することができる。ドイツ銀行、ドレスナー銀行、コメルツ銀行の 1930 年代半ばのネットワークの密度はそれぞれ 0.0044987, 0.0038978, 0.003738 となっているのに対して、1960 年代末の数値をみると、それぞれ 0.0077138, 0.0086884, 0.0078716 となっており⁶⁾、戦後のネットワークの凝集性が強くなっている。この点は、ネットワークを構成する企業数が戦前には圧倒的に多かったということによるところが大きい。戦前にはカルテルが国家の政策として容認されるなかで企業合同による集中が戦後のようには進んでいな

かったということが関係しているといえる。

銀行をめぐるネットワークにおける当該銀行の中心性という点では、本稿で取り上げた 3 大銀行のいずれの場合でも、当該銀行の隣接度は上位 10 社内あるいは 5 社内に入っており、「距離 1」の範囲での構成企業の多さという点を考えても、高い中心性を示していたといえる。一方、銀行をめぐるネットワークでは銀行の中心性が高いかどうかという点では、上位 20 社のなかに占める銀行の割合は他の業種や産業よりも高い傾向にあり、フローの結節点・メディアという点でも、中核的な位置にあったといえる。例えばドイツ銀行のネットワークにおける同行および距離 1 の範囲で兼任関係のあった企業の合計が 254 社、ドレスナー銀行のネットワークでのその数は 187 社、コメルツ銀行のそれは 162 社にのぼっており、非常に多かったことを考えると、上位 20 位に入る企業は、最上位層の位置にはないとはいえ、ネットワークの情報フロー・メディアにおいて重要な位置を占める企業であった。この点においても、銀行の果たす役割は、他の業種・産業との比較では大きなものであったといえる。

しかし、その一方で、隣接度でみた上位 10 社あるいは 20 社のなかには、炭鉱業、鉄鋼業、化学産業、電機産業、自動車産業など、当時のドイツ資本主義の基幹産業部門の企業も多く含まれているという状況にあった。この点をふまえて考えると、多くの企業との人的な結びつき・つながりが広範な情報の入手・交流を可能にするという点からみても、企業間の人的ネットワークの機能という面で重要な意味をもつ情報の集積・ネットワーク、情報フローの結節点・メディアという点では、銀行は大きな役割を果たす重要な位置を占める一方で、決定的な中心をなす役割を果たす位置にあるわけでは必ずしもなかったという実態もみられる。このような傾向は、隣接度でみた上位 10 位内の場合でも妥当する。

また、3 大銀行のネットワークにおいては高い中心性を示す企業の同じ企業がみられるという傾向にあったという点も、第 2 次大戦期の重要な特徴のひとつであるといえる。このことは、人的ネットワークの情報フロー・メディアの結節点として重要な位置を占める同じ企業から同じような情報の入手の可能性を示すものであり、経営をめぐるある案件に関して大銀行の間でも共通の理解を促すことになりうるものであるといえる。

役員兼任による人的結合においては、監査役会会長という職位の役割・意味や銀行代表の監査役のもつ情報の質など、経営において作用するさまざまな諸要因が、産業・銀行間の関係、企業間の関係にとって重要となってくるであろう。しかし、ネットワーク分析の手法には、こうした点が考慮されることにならないという制約・限界があり、この点をいかに補うかということが重要な問題となる。そこで、本稿で取り上げた企業のネットワークのなかで各構成企業の監査役会メンバーが監査役会会長のポストによる兼任を行っていた件数の多い企業 10 社について補足的にみておくと、以下ようになる。

ドイツ銀行は 78 社において監査役会会長のポストを有しており、その数でみると、同行の

ネットワークでは最も多かった。電機産業の AEG は 74 社において監査役会会長のポストを有しており、その数ではドレスナー銀行、コメルツ銀行のいずれのネットワークにおいてもそれぞれ 1 位に位置しており、ドイツ銀行のネットワークにおいても 2 位に位置していた。鉄鋼業の Vereinigte Stahlwerke AG は 59 社において監査役会会長のポストを有しており、その数でみると、ドレスナー銀行とコメルツ銀行のネットワークでは 2 位、ドイツ銀行のそれでは 3 位に位置していた。化学産業の Kokswerke und Chemische Fabriken AG は 56 社において監査役会会長のポストを有しており、その数でみると、ドレスナー銀行、コメルツ銀行のネットワークでは 3 位、ドイツ銀行のそれでは 4 位に位置していた。銀行業の Deutsche Centralbodenkredit-AG は 47 社において監査役会会長のポストを有しており、その数でみると、コメルツ銀行のネットワークでは 5 位、ドレスナー銀行のそれでは 6 位、ドイツ銀行のネットワークでは 8 位に位置していた。炭鉱業の Rheinische AG für Braunkohlenbergbau und Brikettfabrikation は 51 社において監査役会会長のポストを有しており、その数でみると、ドレスナー銀行のネットワークでは 4 位、ドイツ銀行のそれでは 5 位に位置していた。自動車産業の Daimler-Benz AG は 46 社において監査役会会長のポストを有しており、その数では、コメルツ銀行のネットワークでは 6 位、ドイツ銀行のそれでは 9 位に位置していた。銀行業の Allgemeine Deutsche Creditanstalt は 46 社において監査役会会長のポストを有しており、その数でみると、コメルツ銀行のネットワークでは 7 位、ドレスナー銀行のそれでは 8 位に位置していた。鉄鋼業の Mitteldeutsche Stahlwerke AG は 45 社において監査役会会長のポストを有しており、その数でみると、ドレスナー銀行とコメルツ銀行のネットワークでは 8 位に位置していた。炭鉱業の Essener Steinkohlenbergwerke AG は 45 社において監査役会会長のポストを有しており、その数でみると、ドレスナー銀行のネットワークでは 8 位、ドイツ銀行のそれでは 10 位に位置していた。ドレスナー銀行は 44 社において監査役会会長のポストを有しており、その数でみると、同行のネットワークでは 10 位、コメルツ銀行のそれでは 9 位に位置していた。保険業の Allianz und Stuttgarter Verein Versicherungs AG は 51 社において監査役会会長のポストを有しており、その数でみるとドレスナー銀行のネットワークでは 4 位に位置していた。保険業の Gerling-Konzern Allgemeine Versicherungs AG と Gerling-Konzern Lebensversicherungs AG が監査役会会長のポストを保有していた企業の数はそれぞれ 51, 41 となっており、その数では、コメルツ銀行のネットワークにおいてそれぞれ 4 位と 10 位に位置していた。電力業・ガス産業・エネルギー産業の Ruhrgas AG と炭鉱業の Rheinisch-Westfälisches Kohlen-Syndikat が監査役会会長のポストを保有していた企業の数はそれぞれ 49, 48 となっており、その数では、ドイツ銀行のネットワークにおいてそれぞれ 6 位と 7 位に位置していた⁷⁾。

このように、本稿で取り上げた複数の銀行のネットワークにおいて、監査役会会長のポスト

による兼任件数の多い同一企業がみられたという点が、特徴的である。このことは、3大銀行のネットワークにおいて中心性の高い企業は同時にまた多くの監査役会会長のポストを有している企業でもあったことを示している。それゆえ、中心性の高い企業は、多くの企業において監査役会会長という重要ポストをもととしてネットワークの情報フローの結節点として重要な役割を果たす位置にあったといえる。

(完)

<注>

- 1) Vgl. J. Mossner (Hrsg.), *Adressbuch der Direktoren und Aufsichtsräte 1936*, Bd. I, Nach Personen geordnet, Finanz-Verlag, Berlin, 1936, Deutsche Bank und Disconto-Gesellschaft, *Geschäftsbericht*, Dresdner Bank, *Geschäftsbericht*, *Handbuch der deutschen Aktien-Gesellschaften* を基に筆者算定。
- 2) Vgl. J. Mossner (Hrsg.), *a. a. O.*, S. 23, S. 232, S. 280, S. 304-305, S. 387, S. 749, S. 790, S. 913-914, S. 987, S. 1139, S. 1158, S. 1371, S. 1452, S. 1569, S. 1693.
- 3) Vgl. *Ebenda*, Deutsche Bank und Disconto-Gesellschaft, *Geschäftsbericht*, Dresdner Bank, *Geschäftsbericht*, Commerz- und Privat-Bank AG, *Geschäftsbericht*, *Handbuch der deutschen Aktien-Gesellschaften* を基に筆者算定。
- 4) Vgl. J. Mossner (Hrsg.), *a. a. O.*, S. 52, S. 232, S. 270, S. 544-545, S. 704, S. 718-719, S. 1103, S. 1217, S. 1231, S. 1279, S. 1412, S. 1439-1440, S. 1452, S. 1526, S. 1736-1737.
- 5) 総ライン数については、J. Mossner (Hrsg.), *a. a. O.*, Deutsche Bank und Disconto-Gesellschaft, *Geschäftsbericht*, Dresdner Bank, *Geschäftsbericht*, Commerz- und Privat-Bank AG, *Geschäftsbericht*, *Handbuch der deutschen Aktien-Gesellschaften* を基に筆者算定。
- 6) 山崎敏夫『ドイツの企業間関係——企業間人的結合の構造と機能——』森山書店, 2019年, 第7章を参照。
- 7) Vgl. J. Mossner (Hrsg.), *a. a. O.*,

<参考文献>

1 欧文文献 (著者名のあるもの)

Commerz- und Privat-Bank AG, *Geschäftsbericht*.

Deutsche Bank und Disconto-Gesellschaft, *Geschäftsbericht*.

Dresdner Bank, *Geschäftsbericht*.

Mossner, J. (Hrsg.), *Adressbuch der Direktoren und Aufsichtsräte 1936*, Bd. I, Nach Personen geordnet, Finanz-Verlag, Berlin, 1936.

2 欧文文献 (著者名のないもの)

Handbuch der deutschen Aktien-Gesellschaften.

3 日本語文献

山崎敏夫『ドイツの企業間関係——企業間人的結合の構造と機能——』森山書店, 東京, 2019年。